

## □ アナリスト週間相場予想

		
江崎		
西		

## Pick up News

- [注目スケジュール]  
 12/10 11月の米財政収支  
 11 10月の米貿易収支  
 米新規失業保険申請件数  
 第3四半期のユーロ圏経常収支速報  
 12 11月の米小売売上高  
 12月の米ミシガン大消費者信頼感指数

## □ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



チャートは東京白金日足に一目均衡表を被せたものである。今週に入ってから運行線が日足に接触、しかしながら横這い相場の中での接触の為ははっきり好転は確認できず、2300円～2700円のレンジは確りブレイクアウトされない展開が続いている。単純パターン分析上はこのレンジのブレイクアウトに追随すべきでありブレイクアウトを待ってからの仕掛けが望ましい。しかしながら他セクターの銘柄チャートとの関係に目を向けると面白い事に気づく。大暴落の始まった今年の夏から秋にかけて、主要銘柄が殆ど10/27にボトムをつけ(ゴムは11/28)、一旦レンジ相場に移行した日足チャートとなっている。そして11月以降の展開として、この10/27の安値をエナジーセクターは11月前半にブレイクダウン、それ以降ゴムが追随し、コーンが12/1に続いてブレイクダウン、一般大豆が12/4にそれに続き現一代安値を更新中である。この展開を鑑みるに、現在10/27安値を試しにしている銘柄は白金であり、他セクター銘柄がブレイクダウンする直前のチャートパターンに酷似していることが伺われる。白金は10/27の安値をブレイクするタイミングを上手く捉えてレンジブレイクアウトの手法でもって追っかけて売り準備をしておくのが上策と考える。金は未だ2100円～2500円のレンジの中間地点、来週一杯は積極的な仕掛けは見送りたい(12/5前引け現在)。

## □ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

まずは11月の米雇用統計に注目したい。前哨戦となるADP雇用報告、新規失業保険申請件数ともに内容は悪化の一途を辿っており、誰も期待はしていないだろう。市場予想では失業率が6.8%へ0.3%悪化すると見込まれている。そして、出口が見えてこないビッグスリーの救済問題が不透明感をさらに強めている。通常の解釈であれば、こうした場合には金への質への逃避が起こるものだが、そうした動きは感じられない。株価低迷で投資余力を無くしていることも出来るが、ドルが相対的に強い(ドル・インデックスが上昇)ことも金買いを抑える要因となっている。一般的にはドル安と言われるが、ドルは対円以外では強含んだ状態であり、現状を的確に指摘する言葉ではないことに注意が必要だ。ドル高を背景にドル建てのNY金には売り圧力が加わり、円高で国内相場にはさらにプレッシャーが掛かっている。為替を中心に考えるならば、よほど突っ込んだ場面でない限り買い妙味は乏しいと言わざるを得ない。

一方の白金、こちらはビッグスリー救済への期待感から下値では買い意欲も見られるが、結果的に救済が決定したとしても上昇トレンドに回帰するとは早計であろう。あくまで心理的な好材料に過ぎず、実際の触媒需要が上向く保証はない。まして、欧州では排ガス規制の一段の強化が見送られる模様。噴き値があれば売るとも待っていて良さそうだ。あるいは短期勝負と割り切るか。仮にビッグスリー救済への道が閉ざされたとしても、金価格を下回る水準からは抵抗感も強まるものと考えている。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

許可RE0083(許可取得日08/12/5)